



新会長としての初心

全国特別支援学級設置学校長協会

会長 近藤正幸



前任の河本真一会長の後を受け、平成25年度全国特別支援学級設置学校長協会会長を努めることとなりました、東京都国分寺市立第二中学校長・近藤正幸です。

さて、過日開催いたしました、平成25年度定期総会並びに本協会創立50周年記念式典、祝賀会には文部科学事務次官：森口泰孝様、文部科学省初等中等教育局長：布村幸彦様、各関係機関の皆様のご臨席を仰ぎ挙行することができました。心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、本年度の総会では、本会の方針「共生社会の構築に向け、小・中学校における特別支援教育を充実させる設置校長会」が承認されました。私たち全国特別支援学級設置学校長協会の校長は、自らの学校経営計画に特別支援教育の充実・推進を明確に位置づけ具体的な学校経営を推進していかなければなりません。

また、定期総会では文部科学省初等中等教育局特別支援教育課課長：大山真未様から「特別支援教育の充実」と題し行政説明を受けるとともに、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所理事：新谷喜之様から同研究所の事業説明をいただきました。

大山課長様の説明でも示されましたように、全国小・中学校の特別支援学級に在籍する児童・生徒数や学級数の増加は著しい状況にあります。私たち校長は改めて、一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育を推進するとともに、教員の専門性、指導力の向上、さらには児童・生徒の交流及び共同学習や校内委員会の運営等、多くの課題が山積しています。私たち全国特別支援学級設置学校長協会の校長は、将来を担う子供たち一人一人に共生社会の形成力を培い、実践のできる児童・生徒の育成を図らねばなりません。そのためには、校長がリーダーシップを発揮し自校の課題に対し真摯に取り組むことが大切であると考えています。

次に定期総会前日に行われました、第1回全国副会長会では、特別支援教育に関わる各県の研修の状況や方法について意見交換をするとともに、先般、文部科学省の調査で示されました、通常の学級に在籍をする発達障害のある児童・生徒の状況等についても意見交換ができました。また、この全国副会長会では文部科学省初等中等教育局特別支援教育調査官：樋口一宗様、同調査官：丹野哲也様から、学校経営を進める校長としての在り方についてご指導ご助言をいただきました。また、本年度の全国調査の内容、方法等について、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所主任研究員：小澤至賢様よりご助言をいただきました。

最後に定期総会、周年行事を終え、新しい歩みが始まりました。私・近藤正幸は全国特別支援学級設置学校長協会の会長とし、全国小・中学校の校長先生方とともに特別支援教育の充実・推進に努めてまいります。重ねて本協会の活動に対しまして、ご支援ご協力をいただきますようお願いいたします。

定期総会・研究協議会

1 日 時 平成25年6月21日(金) 10時30分～12時55分
 2 会 場 ホテル「フロラシオン青山」 東京都港区南青山4-17-58
 3 会 次 第

定期総会 10:30~11:30

研究協議会 11:40~12:30

- (1) 開会の言葉
- (2) 会長挨拶
- (3) 新会長承認、挨拶

(1) 行政説明
 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課
 課長 大山 真未

様

- (4) 議 事
 - ・規約改正
 - ・24年度活動報告、決算報告
 - ・25年度役員選出
 - ・25年度活動方針、事業計画、予算
- (5) 第50回全国研究協議会(青森大会)、

(2) 事業説明
 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
 理事 新谷 喜之 様

ブロック会及び顧問・参与の会

12:40~12:55

秋季研究協議会(東京大会)及び
 第3回全国理事研究協議会(滋賀大会)
 の案内

- (6) 感謝状贈呈
- (7) 全国副会長会報告
- (8) 閉会の言葉

4 総会の結果報告

平成25年度会長に、東京都国分寺市立第二中学校 近藤 正幸 校長が承認された。
 また、規約改正、平成24年度事業報告、同決算報告及び、平成25年度事業計画案、
 同

予算案は、円滑な議事進行の下、総会出席者によって全て承認された。

1. 特別支援教育の現状 ～特別支援教育の充実～

特別支援教育の理念

発達障害を含め障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの。

学校教育法の一部改正(平成19年4月施行)

- ・盲学校、聾学校、養護学校を障害種別を超えた特別支援学校に一本化。
- ・特別支援学校においては、在籍児童生徒等の教育を行うほか、小中学校等に在籍する障害のある児童生徒等の教育について助言援助に努める旨を規定。
- ・小中学校等においては、発達障害を含む障害のある児童生徒等に対して適切な教育を行うことを規定。

特別支援教育の対象者

① 特別支援学校	0.63%(約6万6千人)
② 小・中学校の特別支援学級	1.58%(約16万4千人)
③ 連続による指導	0.69%(約7万2千人)
④ 通常学級にLD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動性障害)等の児童生徒が6.5%程度で在籍の可能性(H24文部科学省調査)	

※ 数値は、義務教育段階における全児童生徒数に占める対象児童生徒数の割合。(○)内は対象児童生徒数。

特別支援教育の課題

- 特別支援教育の対象児童生徒の増大
 - ・平成14年度から平成24年度にかけて、特別支援学校在籍者は約38%増、小・中学校の特別支援学級在籍者は約101%増、過級指導対象者は約125%増。
- 幼稚園、小・中学校、高等学校における校内支援体制の整備
 - ・小・中学校→一人一人に応じたきめ細やかな支援の充実
 - ・幼稚園、高等学校→全般的に体制整備に遅れ
- 一人一人の教育的ニーズに応じた教育の実現
 - ・個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成
- 教員の専門性の向上
 - ・障害の重症・重複化、多様化等に対応した専門性の確保、向上

具体的な施策

- 幼・小・中・高等学校等の特別支援教育体制の整備
 - ・インクルーシブ教育システムの構築事業
- 特別支援教育に係る人的環境の整備
 - ・特別支援教育の充実のための定数措置
 - ・特別支援教育支援員(地方財政措置:H19年度～公立小・中学校、H21～公立幼稚園、H23～公立高校)
- 特別支援学校の大規模化・狭隘化への対応
 - ・教室不足等の解消のための施設整備等
- 特別支援学校等の学習指導要領の改訂
 - ・重症・重複化への対応、個別の指導計画等の作成、職業教育充実、交流及び共同学習の推進等
- 特別支援教育担当教員の専門性の向上
 - ・各都道府県の指導者を対象とした専門的研修の実施
- (独)国立特別支援教育総合研究所の充実
 - ・発達障害教育情報センターの設置、専門的・実践的研修の実施

平成25年度

全国特別支援学級設置学校長協会 創立50周年記念式典

1 日 時 平成25年6月21日(金) 14時00分～16時00分

2 会 場 ホテル「フロラシオン青山」 東京都港区南青山4-17-58

3 会 次 第

(1) 開式のことば

(2) 国歌斉唱

(3) 会長挨拶

(4) 文部科学事務次官祝辞 森口 泰孝 様
文部科学大臣表彰者授与式

(5) 来賓祝辞

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	理事長	宍戸 和成 様
東京都教育庁指導部特別支援学校教育担当	課長	山本 優 様
全国連合小学校長会	事務局長	小滝 岩夫 様
全国特別支援学校長会	会長	兵馬 孝周 様
全国特別支援教育推進連盟	理事長	大南 英明 様
全日本特別支援教育研究連盟	理事長	松矢 勝宏 様
全日本手をつなぐ育成会	理事長	久保 厚子 様
全国国公立幼稚園長会	事務局長	楚阪 博 様

(6) 来賓紹介

(7) 閉式のことば

<記念講演>

演題 「金子みすゞの世界」

講師 嶋田 靖代 様 (金子みすゞ記念館：学芸員)

<祝賀会 会次第>

17時15分～19時00分

(1) 開会のことば

(2) 実行委員長挨拶

(3) 来賓祝辞 文部科学省初等中等教育局 局長 布村 幸彦 様
課長 大山 真未 様

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
理事 新谷 喜之 様
理事長 大南 英明 様
全日本特別支援教育研究連盟 理事長 松矢 勝宏 様
全日本手をつなぐ育成会 理事長 久保 厚子 様
全国国公立幼稚園長会 事務局長 楚阪 博 様

(4) 乾杯 (5) 懇談 (6) 謝辞 (7) 閉会のことば

4 創立50周年記念式典・祝賀会の報告

創立50周年記念式典では、文部科学省初等中等教育局長布村幸彦様より、全特協に長年関わりご尽力された皆様に文部大臣表彰をしていただきました。また、式典後の記念講演は、講師に、金子みすゞ記念館の学芸員である嶋田靖代様をお招きし、心温まるお話をいただきました。祝賀会を含めて、たくさんの皆様のおかげで盛大な会となりました。

平成25年度全国特別支援学級設置学校長協会実態調査について

「特別支援学級の教育課程に関する調査」のお願い

全国特別支援学級設置学校長協会は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所のご協力をいただき、全国の特別支援学級設置校の現状の把握と特別支援学級設置校の校長の意識調査を行っている。昨年度までの3年間は全国の校長先生に悉皆で調査を行ってきたが、今年度からは抽出の調査になる。

今年度は、学習指導要領の中に明記されたことによって、全国的に交流及び共同学習が行われるようになってきた中、特別支援学級の教育課程について調査する。特別支援学級の専門性を確保するにあたり、特別支援学級での指導の内容は大変に重要であり、その現状について把握することが必要になってきたためである。平成25年度の調査は以下の通りである。

記

1 調査目的

- ・特別支援学級の基本的な状況の把握
- ・特別支援学級の教育課程の状況の把握

2 調査対象

全国の知的障害の学級設置校の校長の約10%
全国の自閉症・情緒障害の学級設置校の校長の約10%
(全特協の各地区理事を通して、各地区の調査校を抽出する)

3 調査期間

平成25年7月16日(火)～9月末日

4 調査方法

- ・アンケートサーバーによるweb調査(全特協のホームページ等より実態調査にアクセスし、回答を求める方式)

なお、本調査については、既に開催された平成25年6月20日(金)の第1回全特協副会長会及び21日(金)の第1回全特協全国理事会定期総会において了承されている。各学校に対し、各都道府県の理事や各地区の責任者(理事)を通して調査の依頼がなされるので、是非、調査へのご協力をお願いしたい。

〔問い合わせ先〕全国特別支援学級設置学校長協会 調査部長 川崎 勝久

東京都新宿区立東戸山小学校 電話 03-3205-9504

FAX 03-3205-9487

メールアドレス katsuhisa.kawasaki@city.shinjuku.lg.jp

<ご案内> 全国特別支援学級設置学校長協会秋季研究協議会

第30回関東甲信越地区研究協議会 東京大会

【研究主題】 『一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実』

【日時】 平成25年10月25日(金) 10:00～16:00

【会場】 調布グリーンホール(東京都調布市小島町2-47-1)

文化会館たづくり(東京都調布市小島町2-33-1)